

2022 年度事業 進捗報告書（実行団体）

- 提出日 : 2022年10月4日
- 事業名 : 子どもに差別意識を持たない、持たせない、引き継がせないための 地域人権教育教材づくり事業
- 資金分配団体 : 大阪府人権協会
- 実行団体 : 部落解放同盟大阪府連合会平野支部

① 実績値

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況*
地域住民と元住民が、差別体験や地域への想い、仲間同士のルーツに関わる悩みを分かち合う場を提供する。	地域内外で暮らす約12人に聞き取り調査をおこなう。今の部落の青年層や他のマイノリティのルーツに向き合う共通点や差異を検証。	地域住民や元住民の日頃の困りごとを気軽に相談できる仕組みづくり、部落にルーツがあることに関わる悩みを語り合える居場所をつくる。	2022年12月	自治会協力のもと、平野地域に暮らす住民との当時の写真・映像を用いて思い出を語る座談会（8人）を10月3日に開催。9月28日に地域を出たルーツがある2人との意見交換を開催。今後、参加した2人も数珠繋ぎで参加の声かけをおこなっていただき、第2回目を12月16日に行う予定。	3
地域住民と元住民が、差別体験や地域への想い、仲間同士のルーツに関わる悩みを分かち合う場を提供する。	また大阪府2000年部落実態調査との比較検証をおこなう。	地域住民や元住民の日頃の困りごとを気軽に相談できる仕組みづくり、部落にルーツがあることに関わる悩みを語り合える居場所をつくる。	2022年12月	上記と同じ	3

<p>周辺住民や関係者と共に、平野郷と平野地域の歴史研究を行う機会を提供する。</p>	<p>郷土と部落の歴史を互いに学び、研究をおこなうことで、意識の変化を考察するアンケートをおこなう。</p>	<p>周辺住民や関係者が部落に対する偏見や差別の認識の共有。差別を許さない理解者（アライ）となっている。</p>	<p>2022年 10月</p>	<p>6月9日に平野連合町会の協力のもと、平野郷の歴史学習会（講師：平野郷歴史研究会南田さん）を開催した。また9月14日に平野地域の歴史について学習（講師：リバティおおさかの吉村さん）し、9月30日には全国水平社創立100年学習会（講師：リバティおおさかの朝治さん）をおこなった。</p>	<p>3</p>
<p>部落史はじめ部落問題の学習会や平野地域のFW、他の人権問題学習を通して、実践を学ぶ機会を提供する。</p>	<p>毎年の教職員新転任研修（約100人）において、受講者の部落問題の認知度や学習に対する向き合いなどを事前・事後アンケート調査を毎年実施する。</p>	<p>教職員が自分事として部落問題を教える力がついてきている状態。部落問題を通じて他の人権問題を教える力がついてきている状態。</p>	<p>2022年 10月</p>	<p>教職員新転任研修において、第2回目のアンケート調査をおこなった。</p>	<p>3</p>
<p>部落の歴史と差別に闘う運動、部落に住む住民の想い、部落を出た当事者の意識や葛藤を反映した地域人権教材を作成する。</p>	<p>学校と地域住民や元住民、周辺住民が協働した“教材づくり”と“人づくり”の人権「共育」実践が、「部落問題学習に役に立ったのか」「自尊感情が高まっているのか」「部落差別解消につながったのか」など、それぞれの立場でアンケート調査する</p>	<p>平野区の企業や市民が地域人権共育教材を活用して学べる状態</p>	<p>2023年9 月頃</p>	<p>学校の先生共に学校で使う「教材づくりプロジェクトチーム」を月に立ち上げた。第1回目は部落問題についてお互いに思っていることを出し合うワークショップをおこなった。また第2回目は平野地域の歴史の学習会と併用して開催し、歴史を学んでもらった。</p>	<p>3</p>

*進捗状況：1 計画より進んでいる、2 計画どおり進んでいる、3 計画より遅れている、4 その他

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
3.課題がある
2.アウトカムの状況
A: 変更項目 <input checked="" type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの内容 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの表現 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの指標 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値
5.新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点
オンラインでの学習会を開催した。

③ 広報 (※任意)

- 1.メディア掲載 (TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等)
- 2.広報制作物等
- 3.報告書等

2020 年度事業 中間評価報告書（実行団体）

評価実施体制

内部／外部	評価担当分野	氏名	団体・役職
内部	事業評価		執行委員
内部	地域分野		書記長
外部	同和教育・人権教育		大阪市立大学
外部	マイノリティの当事者性		関西大学

A) 事業のアウトカムの進捗状況の評価

① 短期アウトカムの進捗状況

アウトカムで捉える変化の主体	指標	目標値	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
教職員	教職員が人権に関する知識を得、学校における人権教育、部落問題学習必要性を再認識できている	学校において部落問題学習を実施している。	2023年	新転任教職員のアンケートを踏まえ、学校の教員と共に教材づくりプロジェクトチームを立ち上げる。ただし、学校の先生の業務に負担が掛からないよう日程等に配慮し開催した。学校の先生から、一歩ずつだが、部落問題学習にとりくむ必要性を感じている教員が出始めている声があった。

<p>地域住民 地域元住民</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●地域住民や地域外で暮らす仲間とのつながりが紡がれている ●地域を出た仲間同士がルーツの悩みを分かち合っている ●当事者が地域の良さを認識できている 	<p>地域住民交流と地域外住民の交流</p>	<p>2023年</p>	<p>公営住宅に暮らす地域住民は高齢者（平均70歳以上）が多いため、コロナ禍で延期していたが、自治会に協力を得て座談会を開催した。昔の写真や映像（8ミリフィルム）を用いて当時の地域や人物などを思い出して語ってもらった。家族の事情で公営住宅を出た人も来てくださり、関係性をつなぎなおすきっかけとして成果があった。</p> <p>地域元住民との意見交換では、声をかけたが仕事や家族等を理由に集まることができなかった。その反省から、まずは人選して、女性2人と意見交換をおこなった。</p> <p>意見交換では、子どもに部落を伝えることへの迷いがあること。また青年時代の立場や各世代での違いなどを気づいた。参加者から「当時の仲間、元教員が今どう思っているか」を知りたい声があり、その2人がキーパーソンになって、企画や声かけを行っていただき、12月に開催する予定。</p>
<p>周辺住民</p>	<p>周辺住民が差別をなくす理解者になる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・協働してこの事業に取り組む ・フィールドワークへの参加 	<p>2023年</p>	<p>第1回歴史研究会では、町会等の協力を得て平野郷の歴史を研究会の方から講演をいただいた。第2回は平野地域の歴史を開催し、学校の先生方にも参加頂いた。</p>



② アウトカムの分析「⑧アウトカムの達成度」(※任意)

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察
教職員が人権教育や部落問題学習を子どもたちに教えることができるようになっているか	学校の中で部落問題学習をおこなう必要性が出始めている。	学校では部落問題を「歴史から」や「一般的」に教えることは行ってきた。この事業を通して、平野では部落問題をリアルに学ぶこと（体験）ができることにつなげていくこと。
地域住民や元地域住民が地域に誇りを持てるようになっているか	地域住民が普段語ることがなかった地域について、思い出を通して語り合う場を設定できたこと。	何をもって「誇りを持てるように」とするのか。地域のことや思い出、モヤモヤが語られる場所があることなど、検討する。
地域住民や元地域住民が子どもにルーツや大権教育について話すことができているか	子どもにルーツを語ることに迷いがあること。	子どもだけでなく、家族にもルーツを言えないなど配慮が必要。
子どもやおとなが部落問題を「自分ごと」として捉えるようになっているか		何をもって「自分ごと」として捉えるかを検討することが必要。他のマイノリティ性との共通点など



事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成の見込みがある <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は難しい と自己評価する	途切れた人間関係を再構築してく作業など、手探りでやっている状況。ただし、事業を進めることで、協力者が生まれたり、あらためて関係性を紡ぎ直しはじめており、一定の事業目標への達成の兆しはある。

B) 事業の改善状況の評価

① 事業の実施過程・事業改善に関する評価

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
実施状況の適切性	周辺住民が差別をなくす理解者になっているか	実行委員会に町会役員（周辺住民）が参加いただけるなど、理解はある。	事業を行うことへの理解については一定共有した。フィールドワークの実践を通しての差別をなくす理解者への展開はこれから。
実施をとおした活動の改善、知見の共有	短期アウトカムの指標や目標値を改善する必要性はないか	教員の部落問題学習の必要性はアンケート、聞き取り通じて把握した。 人間関係を紡ぎなおすために時間や関係性をあらためて改善する必要性がある。	学校の先生の多忙化やコロナ対応を考慮しながらとりくむこと。 公営住宅に暮らす高齢化が進む地域住民、点在し暮らす地域元住民が、何をもって人間関係を紡ぎなおしていくのかを検討した。ひとつは当時の思い出や人、地域の街並みなど共通する記憶を通して語り合うこと。それをつなぐキーパーソンが必要であること。
組織基盤強化・環境整備	自分たち以外の人も協働し事業を担えているか	支部だけでなく、協力してくれる教員・元教員、そして地域では、自治会や元住民などが参加してくれてきている。	上記をふまえて、協働してくれる人を巻き込んだ展開を意識してとりくむ。

② 短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

- ・この事業を進めることで、学校の中で部落問題学習の必要性を理解し、先生方が参画したとりくみが展開できていること。

③ 事前評価時には想定していなかった成果

- ・学校の先生を通して、ルーツがある保護者（元住民）も意識し始めてきている。
- ・共通する記憶をたどり語り合う場では、ルーツを改めて考えるきっかけとなったと思う。また当時の仲間が今どう思い・向き合っているのか（その逆も然り）を知りたいなど、この企画に協力してくれるようになった。



④ 事業計画の改善の必要性の確認

- 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
- 受益者や事業対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
- 事業計画に記載している活動は、アウトプット⇒アウトカムへのつながりが実際に確認できている
- 残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるよう計画されている
- 短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている



事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
<p>残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために</p> <ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 事業計画は適切に改善されたといえる<input type="checkbox"/> 事業計画を適切に改善する見込みがある<input checked="" type="checkbox"/> 事業計画の改善について、課題が残っている <p>と自己評価する</p>	<p>他の仕事を抱えながらの事業を進めるうえで、効率的効果的にとりくむことが必要になる。</p>

⑤ 中間評価結果を踏まえて今後注力したいまたは早急に取り組みたい事項をお聞かせください。

全国水平社・大阪府水平社創立100年、平野支部結成50年、平野小学校創立（*含翠堂閉鎖）150年など、今年は様々な節目の1年として取り組むこと。そして、様々なステークホルダーの協力を得ながら、事業目的「共育」である地域や学校そして人をつなぐ取り組みを展開したい。

*平野合の含翠堂は好学と自治の風を伝える学校で、後の大坂懐徳堂のモデルとなったと言われる。

添付資料

活動の写真（画像データは1枚2MG以下、3～4枚程度）

